



# 資料報

第 33 号

編 集 平成 25 年 3 月 31 日  
 発 行 高森町歴史民俗資料館  
 長野県下伊那郡高森町  
 下市田 2243  
 電話 (0265) 35-7083  
 印 刷 (有) 雨 宮 印 刷  
 電話 (0265) 22-6027



高森町歴史民俗資料館「時の駅」

富本銭 (県宝)

## 目 次

○あいさつ .....	2	・特別展「高森町の養蚕」 .....	10
○平成 24 年度事業報告 .....	3	・雛人形展と美人画展 .....	11
○平成 24 年度の記録 .....	4~5	・大正月飾り .....	11
○委員会等の記録 .....	6	・県宝「富本銭」の実物展示 .....	11
○「時の駅」講座のようす .....	7	○小正月飾り作り教室 .....	12
○平成 24 年度企画・特別展		○学校教育との連携 .....	12
・五月人形と武具展・		○研究調査報告	
東京木目込み人形展 .....	8	特別展「高森町の養蚕」 .....	13~15
・町民ギャラリーに展示された		○平成 24 年度資料寄贈者御芳名 .....	16
児童や生徒の作品 .....	8	○入館者数と利用のようす .....	16
・特別展「原城とその周辺」 .....	9	○編集後記 .....	16

## ◎ごあいさつ



### 高森町長 熊谷元尋

皆さんご存知のように、町の歴史民俗資料館は昭和 54 年 11 月の開設から今日まで、郷土の自然や歴史などの資料等を収集・保管するとともに、一般公開を行い加えて学社連携など先進的な活動をされています。

私たちには、これらの活動により、文化財に対する関心を高める一方、高森町の歴史を正しく認識する機会が提供されてきました。学校だけでは学べないこと、大人になっても学ぶ機会が身近にあることはとても素晴らしいことです。

当地域では、2027 年開業予定のリニア中央新幹線の計画が進み、将来環境が大きく変化することが予想されます。時代がどのように変化しても、高森町の歴史をきちんと後世に残し伝えていくことは極めて重要なことと考えます。

これからも、生涯学習の根拠として、多くの方々に気軽に立ち寄ってもらうことができるような資料館になることを期待します。



### 資料館運営委員長 松島悦男

政治経済や原発エネルギー、教育問題等大変な難問ばかり山積みの今年度でした。しかも最近の子どもも過密スケジュールで大変忙しい。果たして自分で考え、工夫する等の学習力は育つのか疑問です。当館では、数年来、小正月飾りを通して、昔の人々の苦しみや生活の知恵、祈りや願い等を実体験する機会を設けているが、年々好評で参加者が益々増加しています。また、小学校の社会科や総合学習での当館利用が飛躍的に伸びてきたのも大変ありがたいことです。歴史的事象や古典に興味・関心を持たせる契機は、本物に触れ、追体験することが何よりも大切だと思うからです。

時の駅講座では、(1)山吹の原城が予想以上に大規模であった事、(2)明永寺の明照講は約 100 年の歴史を持ち、今も毎月供養している事、(3)山吹の大正館では養蚕業が地域の経済の旗手であった事、等を地道な調査を基に分かり易く解説して頂き、多数の参加者と共に各講師の皆様にご感謝申し上げます。

藤原正彦氏は『本はますます遠くなった。政治交代でデフレ不況は終りそうだが、それだけで日本の山積みする問題は解決しない。確固たる歴史観・人間観に裏打ちされた大局観がぜひ必要だ。読書なのだ』と、まさに時の駅の充実と有効利用が今後益々重要な課題になって来るだろうと考えています。



### 高森町教育長 光沢郁夫

24 年度は、今や資料館の顔とも言うべき時の駅講座や特別展等の開催に加え、住民の皆さんの要望により、富本銭の実物展示も行われ、多くの皆さんから好評を博しました。資料館に今以上に関心をもってもらい、多くの皆さんに足を運んでもらうためには、こうして、住民の皆さんの要望を事業に取り入れていくことも大切なことだと思います。一方、資料館を利用した小・中学生の「ふるさと学習」も、郷土の歴史や文化を学ぶ場として、すっかり定着し、各学年で多彩な学習活動が実践されています。これからも、「生涯学習の場」として、また「ふるさと学習の場」として、広くご利用頂くことを願うとともに、この一年間、お力添えを頂きました関係者の皆様にご心から感謝を申し上げ、資料館報第 33 号に寄せる言葉といたします。

# 平成 24 年度 事業報告

館長 近藤 昭 弘

旧役場庁舎を利用して高森町歴史民俗資料館が設立されたのが昭和 54 (1979) 年 11 月、その後「時の駅」が構想以来 10 年の年月を経て平成 12 (2000) 年 3 月に竣工しました。開館から 33 年が過ぎましたが、町民の皆様の温かいご支援、ご指導をいただきましてお陰様で町内外の多くの方々にご利用いただくことができました。心から感謝申し上げ、平成 24 年度の事業報告をさせていただきます。



## [1] 企画・特別展

- ①五月人形と武具展・東京木目込み人形展 (千鶴蒔会) (5月) <662名>
- ②特別展「原城とその周辺」(7月1日～8月23日) <901名>
- ③特別展「高森町の養蚕」(11月～12月16日) <682名>
- ④雛人形と美人画展 (3月) <426名>
  - 三校児童・生徒作品展
  - 小正月飾り作り体験教室 (1月) <36名>
- ⑤富本銭の特別展示 (7月7日～7月16日) <259名>

## [2] 「時の駅」講座 (12年次)

- |                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| ①第1講座 7月7日(土)「ここまでわかった原城」       | 松島高根氏 48名 |
| ②第2講座 9月1日(土)「古刹 明永寺の歴史と宝物」     | 小林正人氏 79名 |
| ③第3講座 10月20日(土)「産業組合と生糸販売組合大正館」 | 塩澤 孝氏 37名 |

## [3] 古文書研究会

- ・竹内昭一先生を講師に毎月第2木曜日に実施 (うち1回は館外研修)
- ・2月は、山内尚巳先生に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から35名が参加。

## [4] 委員会の活動

- ① 運営委員会 資料館の運営について協議。3回開催 (その外に小正月飾り作り体験教室で臨時に1回開催)
- ② 調査委員会 昨年に続き高森町の古い家並み・屋号調査 5回開催

## [5] 委員・職員研修視察

- ・奈良市を中心に、日本最古の鑄造貨幣「富本銭」が出土した飛鳥池遺跡等を巡る研修視察 (1泊) を実施。

## [6] 学社連携事業

- ① 資料館と学校が連携して授業を実施
  - 高森南小 3～6年 (21学級)、 高森北小 3～6年 (5学級)
  - 松川中央小3年 (3学級)、上郷小3年 (4学級)、大鹿小5・6年 (2学級)
- ② 農業体験ホームステイで来町した県外の中・高生が見学のため来館 (4グループ)
- ③ 資料館の施設を使つての高森南小歴史探検クラブの活動

## [7] 入館者数

平成 24 年度の入館者数は 7,020 名 (昭和 54 年の開館からは 192,048 名)

## [8] その他

- ・町内外の小学校の子どもたちが社会科学習等で資料館を積極的に活用してくれ、実物に触れての体験コーナーは好評であった。また、松岡城址や秋葉塔の塚等の史跡での現地学習の支援も行った。
- ・高森町史学会、下市田一区自治会、吉田区高寿会、柿の里短歌フォーラム、県文化財保護協会、北部老人クラブ連合会、下伊那地方事務所、神奈川大学ゼミ等、町内外の多くの団体の方が来館し、館内の見学や施設をご利用いただいた。
- ・町内の小学生を対象にした小正月飾り作り体験教室は、運営委員の皆さんのご協力で実施することができ、36名が参加してくれた。
- ・天理教高森支部の皆さんが、奉仕作業 (除草、窓ガラス拭き) を継続して実施してくださり、環境整備の面で大変助かっている。

## ※平成 24 年度の記録

4. 2 新年度発足 (館長、主事、臨時、各 1 名)
- 12 神戸市押部谷老人クラブ (90 名)
- 12 第 1 回古文書研究会 (22 名)
- 17・20 高森町史学会役員会、監査会、幹事会 (27 名)
- 18 第 1 回資料館運営委員会 (7 名)
- 24 旧館駐車場へ鯉のぼり飾り付け
- 25 高森町史学会総会及び講演会 (36 名)
- 25 引佐町歴史と文化を語る会 (22 名)
- 26 第 1 回資料館調査委員会 (14 名)
- 27 千鶴菰会の皆さんによる東京木目込み人形の飾り付け (13 名)
- 29 天理教の皆さんによる奉仕作業 (30 名)
5. 2 特別展「五月人形と武具展、東京木目込み人形展」5 月 31 日まで
- 2 高森南小学校六年生社会科学習「大昔のくらし」(113 名)
- 10 高森南小学校 6 年生の遠足で館長出張授業 (115 名)
- 10 第 2 回古文書研究会 (22 名)
- 20 千葉県鎌ヶ谷市立第二中学校ホームステイ学生 (3 名)
- 22 伊那谷近代思想史研究会 (5 名)
- 26 下市田一区自治会の「親子おもしろ科学教室」(58 名)
- 29 南信仏画研究会 (4 名)
- 31 市田柿由来研究委員会 (14 名)
6. 1 第 1 回資料館活用委員会 (7 名)
- 4 大阪府枚方市立枚方中学校 3 年生ホームステイ学生 (4 名)
- 5 高森南小学校歴史探検クラブ (9 名)
- 12・14 高森南小学校 3 年 1・2・4 組 社会科学習 (90 名)



長野県文化財保護協会南信大会が開かれました(6月)

6. 14 神戸市湊翔楠中学 3 年生ホームステイ学生 (4 名)
- 14 第 3 回古文書研究会 (19 名)
- 15 第 2 回資料館調査委員会 (12 名)
- 20 長野県文化財保護協会南信大会 (70 名)
- 21 緑のカーテン講習会 (13 名)
- 27 郷友上高地会 (11 名)
- 29 中津川市阿木歴史教室 (13 名)
- 30 南信仏画研究会 (5 名)
7. 1 特別展「原城とその周辺」8 月 23 日まで



富本銭の実物展示を見る「出原お茶のみ会」の皆さん(7月)

- 5 資料館古文書研究会館外研修：海津資料館、木曾三川、桑名海蔵寺 (13 名)
- 7 第 1 回「時の駅講座 松島高根氏」(48 名)
- 7 富本銭の実物展示 7 月 16 日まで
- 11 出原お茶のみ会の皆さん (18 名)
- 13・18 高森南小学校 6 年 3 組：町のパンフレット作り (10 名)
- 14 原城愛護会 (7 名)
- 19 市田柿由来研究委員会 (9 名)
- 22 高森町史学会地域巡り (40 名)
- 22 座光寺氏の甲冑を京都市宮帯出版社が撮影
- 28~29 神奈川大学 森ゼミ 増野開拓調査 (12 名)
8. 2 第 2 回資料館活用委員会 (7 名)
- 2 第 5 回古文書研究会 (17 名)
- 6~11 第二展示室の燻蒸作業のため休館
- 12 国学関係で伊那ケーブルテレビ来館 (3 名)
- 21 高森町史学会幹事会 (11 名)
- 25 南信仏画研究会 (4 名)
- 26 淡交会長野県支部南信青年部 (11 名)
- 29 愛知大学学生が市田柿調査で来館 (10 名)
- 30 吉田区高寿会の皆さん (18 名)
9. 1 第 2 回「時の駅講座 小林正人氏」(79 名)
- 5 高森南小学校 4 年 3 組総合学習 (10 名)
- 6 大阪府立伯太高校生ホームステイ学生 (4 名)
- 8 高校社会科担当教諭の皆さん (10 名)
- 12 シニア大学 30 期史跡めぐり (29 名)

- 9. 13 第 6 回古文書研究会 (18 名)
- 14 第 3 回資料館調査委員会 (13 名)
- 19 第 2 回資料館運営委員会 (6 名)



柿の里 短歌フォーラムの様子 (9 月)

- 27・30 柿の里短歌フォーラムの役員会及び大会 (67 名)
- 28 三遠南信文化交流講座現地学習 (34 名)
- 10. 2 みつば保育園すみれ組 (39 名)
- 3 資料館運営及び調査委員研修視察 (1 泊)  
奈良文化財研究所、飛鳥池工房
- 7 大島山ふれあい広場 (36 名)
- 10 大鹿小学校 5・6 年生秋の遠足で来館 (19 名)
- 11 北部老人クラブ連合会幹部研修会 (40 名)
- 11 第 7 回古文書研究会 (18 名)
- 11 高森南小歴史クラブ (10 名)
- 12 高森町史学会役員会 (4 名)
- 20 第 3 回「時の駅講座 塩澤孝氏」(37 名)
- 23・25 高森南小学校 5 年 1・4 組 常設展の見学 (59 名)
- 27 南信仏画研究会 (2 名)
- 28 吉田第 12 常会 6 組の皆さん (14 名)
- 30 高森町シニア大学歴史郷土班 (32 名)
- 31~1 神奈川大学 森ゼミ 増野開拓調査 (10 名)
- 31 高森南小学童クラブ (40 名)
- 11. 1 特別展「高森町の養蚕」12 月 16 日まで
- 8 柿の里ウォーキング (150 名)
- 8 第 8 回古文書研究会 (13 名)
- 16 高森南小学校 5 年 2 組 特別展の見学 (29 名)
- 17 高野町の皆さん (26 名)
- 18 安城市考古学談話会 (12 名)
- 21 下市田史談会 (15 名)
- 24 南信仏画研究会 (3 名)
- 12. 12 高森町史学会幹事会 (10 名)
- 13 第 9 回古文書研究会 (16 名)
- 28 大正月の飾付け
- 1. 9 出原歴史研究会 (3 名)

- 1. 10 第 10 回古文書研究会 (18 名)
- 12 小正月飾り作り体験教室 (36 名)
- 14 語りの会たんころりん (27 名)
- 18 第 4 回資料館調査委員会 (13 名)
- 22~24 松川中央小学校 3 年生 社会科学習 (111 名)
- 23~25 高森南小学校 3 年生 社会科学習 (123 名)
- 25 小正月飾り片付け 南小学校児童 64 名参加
- 2. 1・26 高森南小学校 3 年 2 組 社会科学習 (56 名)
- 2 高森町史学会幹事会 (13 名)
- 5 第 3 回資料館活用委員会 (7 名)
- 6 社会教育委員会 (6 名)
- 7・8 上郷小学校 3 年生 社会科学習 (146 名)
- 8・27 松岡氏の会 (26 名)



たんころりんの皆さんによる語りの会 (1 月)

- 9 長野県数学教育協議会 (25 名)
- 13~14 高森南小学校 4 年生 社会科学習 (116 名)
- 14 古文書特別研究会 講師：山内尚巳先生 (35 名)
- 15 豊丘中学校特別支援学級 見学学習 (6 名)
- 17 南野球保護者会 (20 名)
- 19 高森北小学校 6 年生 社会科学習 (46 名)
- 20 高森北小学校 3 年生 社会科学習 (26 名)
- 25 美人画教室の皆さんによる美人画飾り付け (12 名)
- 27~28 高森町地球温暖化対策地域協議会 (57 名)
- 3. 1 特別展「雛人形と美人画展」3 月 31 日まで
- 6 第 4 回資料館運営委員会 (5 名)
- 7・15 みつば保育園 (55 名)
- 8 第 5 回資料館調査委員会 (14 名)
- 10 南野球保護者会 (58 名)
- 12~13 高森町史学会研修旅行 (1 泊)「伊豆、箱根、小田原の史跡を巡る旅」(22 名)
- 14 第 12 回古文書研究会 (16 名)
- 22 食生活改善推進協議会 (26 名)
- 25 高森町役場新入職員研修 (10 名)

# 資料館 委員会等の記録

## 1. 運営委員会

〈 委 員 〉

松島 悦男      小林 誠二  
鈴木 大和      林   マリ子  
本島 恭則

〔委員会の主な活動〕

○委員会（年 4 回）

- 4 月 本年度の運営についての協議
  - ・企画・特別展「時の駅」講座の確認
  - ・学社連携事業の促進・富本銭の実物展示について
- 9 月 本年度の事業の見返しと来年度の運営について
  - ・小正月飾り作り体験教室について
  - ・委員・職員研修旅行について
- 10 月 委員・職員研修視察（1泊2日）
- 1 月 小正月飾り作り体験教室への協力
- 3 月 本年度の事業報告と来年度の方向

## 2. 調査委員会

〈 委 員 〉

(山 吹) 塩澤 孝、橋都 洋治  
(吉 田) 中塚 悟、中塚 美弘  
(下市田) 片桐 猛、唐木 孝治  
          中村 忠敬  
(上市田) 下平 清志  
(牛 牧) 竹内 宜雄  
(大島山) 本島 義文  
(出 原) 岩田 邦人

〔委員会の主な活動〕

○委員会（年 5 回）

- ・「家並み、屋号調査」を地区ごとに進めた。  
市田地区は昭和 9 年作成の地図、山吹地区は昭和 31 年作成の地図による聞き取り調査などを基にしてデータのまとめまで行った。
- ・富本銭の特別展示への協力
- ・委員・職員研修視察（10 月）



運営・調査委員会

運営・調査委員と職員による奈良への研修視察

## 3. 古文書研究会

〈 組 織 〉

- ・会 長 小林 正人（牛 牧）
- ・副会長 寺沢 ゆき（山 吹）
- ・会 計 手塚 勝昭（吉 田）
- ・監 事 北澤善二郎（下市田）
- ・講 師 竹内 昭一（下市田）
- ・顧 問 林 藤人（牛 牧）  
          福島 壽子（下市田）  
          原 次郎（下市田）
- ・幹 事 近藤 昭弘、岡田 茂信
- ・会 員 26 名（うち 10 名は町外の会員）

〔活 動〕

○定例会（毎月第 2 木曜日）

郷土に関する古文書の読解を通しての研鑽の他に、館外研修（7 月に木曾三川、桑名市方面）を実施し、会員相互の親睦を図っている。

○特別研究会

山内尚巳先生を特別講師としてお招きしての古文書学習会。（町内外の一般の方も参加）



古文書研究会

古文書 特別研究会の様子



# 「時の駅」講座のようす



本年度で 13 回目を迎えた「時の駅」講座の第 1 講座は、山吹の原城跡で行われた発掘調査の結果にもとづいて、明らかになった原城の姿についてのお話がありました。第 2 講座では、牛牧にある「伝承館」を訪ね、かつてその地にあった「明永寺」の歴史や可圓律師などの歴代住職のお話をさせていただきました。そして第 3 講座は、下伊那の産業組合の歴史、なかでも養蚕業に関わる組合史をとり上げ、この地方の先鞭となって山吹に設立され、戦中の統制勸告まで統合しなかった「大正館」についてのお話でした。3 つの講座ともに講師の方の思いが伝わり、受講者の皆さんは熱心に聴き入っておられました。

## 第 1 講座 「ここまでわかった原城」

7 月 7 日 (土) 48 名受講  
講師 高森町役場職員  
松島 高根 氏

開講式で挨拶される  
小林運営副委員長



原城について  
話をされる松島氏



## 第 2 講座 「古刹 明永寺の歴史と宝物」

9 月 1 日 (土) 79 名受講  
講師 前高森町資料館調査委員  
小林 正人 氏

伝承館で明永寺について  
話される小林氏



瑠璃光殿の内陣を  
見学する受講生



## 第 3 講座 「産業組合と生米販売組合 大正館について」

10 月 20 日 (土) 37 名受講  
講師 高森町資料館調査委員  
塩澤 孝 氏

大正館について  
話をされる塩澤氏



第三講座で熱心に  
聴講される皆さん



# 平成 24 年度 企画・特別展

## 企画展 五月人形と武具展・東京木目込み人形展

5 月 1 日～5 月 31 日 入館者 662 名

本年度も端午の節句に合わせて各種の五月人形や甲冑・刀剣等の他に、師範会千鶴蒔会高森グループの皆さんが丹精込めて作られた東京木目込み人形を展示していただき、参観に来られた皆さんに好評でした。



各種の五月人形や幟



展示されたこいのぼりや甲冑



源氏物語の華やかな人形たち



表情豊かな東京木目込み人形

## 町民ギャラリーに展示された児童や生徒の作品



今年は町内小学校の児童の皆さんの絵や習字、中学校美術部の皆さんの作品だけでなく、夏休みに調査され、郡展で優秀だと認められた二人の児童の皆さんの古墳に関する一研究も展示させていただき、資料館を訪れた皆さんが足を止めて見てくれました。

高森中美術部の皆さんの作品



高森南小児童の皆さんの作品



# 特別展「原城とその周辺」

7月1日～8月23日  
入館者 901名

「県道山吹停車場線」の拡幅工事に伴って、平成 21 年から三ヶ年にわたって山吹の原城城址が発掘調査されました。その結果、従来「小さな城、城砦」と思われてきた原城が、実は中規模な城に分類されるものであり、その痕跡も認められるということが明らかになってきました。そのことを原城址の概観や発掘調査の様子の写真、研究に関わる資料のパネル、発掘調査で出て来た遺物などを展示して見学者に考えてもらいました。町内外の多くの皆さんは興味深く見入ってくれました。

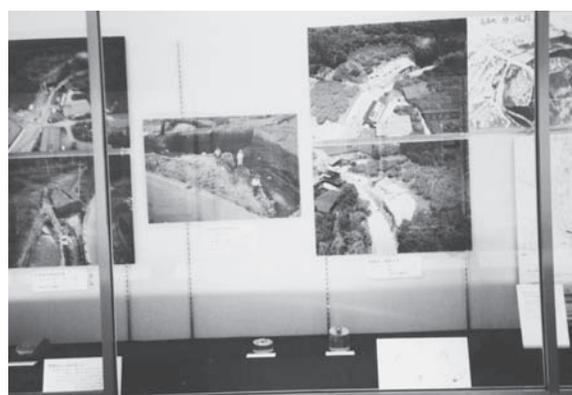


## 「原城とその周辺」主な展示資料

	資 料 名		資 料 名
1	原城跡の写真（遠景や地区の概観）	12	原城跡に関わる研究（パネル）
2	原城跡の発掘調査の写真	13	明治 23 年分間図（パネル）
3	下伊那郡の地頭配置（パネル）	14	遺物（土器、石器、須恵器）
4	下伊那の武将とその対立関係（パネル）	15	遺物（硯）
5	原城周辺の荘園・地頭配置（パネル）	16	遺物（鍬一棹秤の鍬）
6	城郭跡・寺院・神社の配置（パネル）	17	遺物（銅銭一天聖元寶）
7	原城と大島郷の城館跡配置（パネル）	18	遺物（焼き物、陶磁器）
8	原城跡鳥瞰図・縄張図（パネル）	19	遺物（青磁や天目茶碗）
9	城跡の大きさ比べ（パネル）	20	遺物（砥石）
10	龍口氏の動向（パネル）	21	遺物（石臼）
11	市村報告の疑問点（パネル）		



原城に関わる配置図や対立関係図



原城跡や発掘調査の写真



原城鳥瞰図や縄張図



発掘された遺物

# 特別展「高森町の養蚕」

11月1日～12月16日  
入館者 682名

昭和 30 年代までは、養蚕が高森町の農業の主流をなしていました。蚕がつくる繭は農家にとって必要な現金収入であり、「お蚕様」と称して大事に扱われ、繭の豊作を願って「蚕玉様」を祀り、小正月には繭玉を作って飾る風習が各家ごとに行われていました。しかし、その後、養蚕業は下降線をたどり、現在でも養蚕をやる農家は数えるほどになってしまいました。

この特別展では、高森町の養蚕業の変遷をたどるとともに、現在でも頑張っている養蚕を営まれている農家や、新しい繊維の開発や製品化に取り組んでいる大学や企業の様子を、統計資料や写真を交えて紹介しました。

## 「高森町の養蚕」展示項目と主な資料

### 一、養蚕業の変遷 「養蚕業の歩み」(年表)

「収繭量の推移」(折れ線グラフ)

#### 1、幕末から明治期の養蚕

「生糸御改次第書写書覚控」

「富岡製糸所伝習工女の町村別人数」

「養蚕掃立日記兼頼み手間控帳」

#### 2、組合製糸設立前の郡下の製糸工場

「製糸工場の規模別分布図」

#### 3、組合製糸

「大正館の定款、事業報告書」

#### 4、共同稚蚕飼育所の開設

#### 5、製糸連合会の設立

#### 6、大竜社

### 二、養蚕の今と昔

### 三、新たな取組み

#### 1、宮坂製糸所

#### 2、碓井製糸

#### 3、家蚕品種の研究

#### 4、遺伝子組み換え蚕の開発

#### 5、天蚕の飼育



製糸工場の分布や写真



養蚕の今と昔を語る写真



新たな取組みも紹介しました



特別展を見学される皆さん

## 企画展「雛人形と美人画展」

3月1日～3月31日 入館者 426名

今年も町内外の皆様から寄贈された御内裏様や各種の雛人形を展示して雛人形の移り変わりがわかるとともに、町の公民館の美人画教室の皆さんの作品を展示させていただき、華やかな展示となりました。



展示された土雛、押絵雛、豆雛



明治・大正時代の内裏雛



7段飾りの雛人形に見入る保育園児



艶やかな美人画



美人画教室の皆さんによる力作

## 大正月飾り

今年も下市田の唐沢哲男さんと上沼啓孝さんのご好意で、資料館の玄関前に伝統的で立派な門松を飾ることができました。



玄関前に飾られた門松

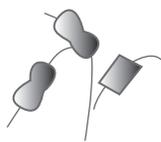
## 県宝「富本銭」の実物展示

町民の皆さんからのご要望により、7月7日(土)から7月16日(月)まで「富本銭」の実物をご覧いただきました。



11月に行われた柿の里ウォーキングでも富本銭の実物が展示されました

# 「小正月飾り作り教室」



1 月 12 日(土)

運営委員の皆さんが準備してくださった小正月飾り（繭玉と餅花）を、町内の小学生の皆さんや保護者の方にも参加してもらい、賑やかに飾ることができました。小正月飾りを懐かしく眺める人や放課後、資料館に寄って飾り終えた餅花と繭玉を喜んでもらっていった小学生などにも豊作を願った先人の思いが伝わったのではないのでしょうか。



見事な出来栄えの小正月飾り（繭玉と餅花）



繭玉について話される松島運営委員長



豊作を願って餅花を飾りました

## 学校教育との連携

子どもたちが郷土の歴史や文化について学び、生まれ育った土地に誇りと愛着を持ってほしいと願っています。そのために、資料館活用委員会で小中学校の先生方に資料館の積極的な活用をお願いしてきました。本年度は、昔の暮らしを学ぶために古い道具を見るだけでなく、道具に触れて体験することも行いました。また、町外の小学生も学習のために来館してくれたり、松岡城址、武陵地古墳などへ出向いての授業も行ったりしました。



松岡城址での出前授業



土器の拓本づくり



いろいろの前にすわっての学習

## 研究調査報告

## 特別展「高森町の養蚕」

館長 近藤 昭弘

## はじめに

高森町は市田柿や果樹の栽培が盛んであるが、昭和 30 年代後半までは養蚕が農業の主流をなしていた。蚕がつくる繭は農家にとって重要な現金収入であり、「お蚕様」と称して大事に扱われた。繭の豊作を願って「蚕玉様」を祀り、小正月には繭玉を作って飾ったりする風習が大事に継承されてきた。

第二次世界大戦後、化学繊維の発明や洋風化による着物離れ、さらには農産物輸入の自由化に伴い安い外国産の繭や生糸の増加等により、養蚕業は下降線の一途をたどってきた。高森町では、養蚕業に替わって市田柿やリンゴ・ナシ等の果樹生産が盛んになってきた。

今回の特別展は、そうした養蚕業の変遷をたどると共に、現在も頑張って養蚕を営まれている農家や、新しい繊維の開発や製品化に取り組んでいる大学や企業の様子を紹介することにした。

## 一 養蚕業の変遷

## 1 明治期の養蚕

明治 5 年(1872)に、群馬県甘楽郡富岡町に官営富岡製糸場が創業された。製糸場を開業するに先だち伝習工女を募集したが、思うように工女が集まらな

かった。そこで政府は明治 6 年に、各県宛に工女を送り込むよう督促した。



官営富岡製糸場

それを受けて、明治 12 年(1879)までの間に長野県から 180 人、飯田下伊那地方からは 65 人の工女が送り込まれた。年齢別にみると 15 歳が最も多く、最年少は 13 歳の少女が故郷を遠く離れた群馬の製糸場まで、最新の洋式機械による繰糸技術の伝習に行った。伝習工女は、ほとんどが 2 年から 3 年で帰郷した。

## 2 組合製糸設立前の郡下の製糸工場

富岡製糸場での工女の繰糸技術の伝習により、小河川沿いに水力による製糸工場が設立され、明治 13 年(1880)には 27 社が創業した。

## 〔関川製糸〕

創始者：  
関川宗三郎氏（弘化 4 年生まれ、大正 15 年没）

始めは上市田で酒屋と農業を兼

ねていたが、明治 20 年(1887)頃製糸業を始めた。最盛期の明治 30 年(1897)から 38 年(1905)頃は、第 1、第 2 の 2 工場があり、釜数 150、女工は約 170 名であった。製品の生糸は、捻って束にしたものを紙袋に包んで板箱へ入れ、さらに筵で梱包し縄を掛けて横浜の伊藤商会へ直接送った。

大正期になると、糸価暴落と組合製糸の勃興によって営業を停止した。

※菅沼製糸、市栄館も営業していた。

## 3 大正から戦前

大正年間になるとますます集繭量が増加し、大正 6 年(1917)には県下一の生産地となった。

しかし当時は飯田線もなく、生糸は三州街道の荷馬車輸送に頼る個人出荷であったので、横浜市場で買い叩かれてしまった。そこで、横浜市場への大量安定輸送をするために、上伊那の「龍水社」で取りまとめてもらうことにした。

## (1) 組合製糸の設立

下伊那地方の養蚕農家の悲願であった組合製糸は、大正 2 年(1913)山吹村に創立された有限会社責任生糸販売組合「大正館」を始め、下伊那地方の各町村に設立された。

## 〔大正館〕

上伊那の組合製糸の実績に刺激された山吹村は、大正 2 年(1913) 2 月に産業組合法による生糸販売組合を設立し、大正の初めに設立したというので「大正館」と命名し同年 6 月に事業を開始した。

繰糸工場は、座光寺の北の屋製糸の建物を 2

棟移築して創業した。それと同時に、北の屋製糸に従事していた約 40 人の熟練工女も雇用することができた。



大正館の全景

隆盛の頃には、約 200 人の工女と 20 人くらいの男工が従事しており、

主として二階建ての寄宿舎に起居していた。工場の建物は、繰糸工場の他に大枠工場、煮繭所、乾燥室、機関室、4 棟の倉庫、事務所等があった。

大正館に加入する組合員は、山吹村一円の他に市田、大島、河野、生田 4 ヶ村にわたり、次第に増加した。大正館は、良質な生糸の生産に努めた結果営業成績が向上し、組合員への配当は近隣の組合より 1 割程多かった。

組合員の結束は強く、後年他の組合が伊那社や天龍社に合併する時代にも、大正館は独り独立経営を続けることができた。しかし、戦時下の昭和 16 年(1941)、蚕糸業統制法の制定によって連合会に合併した。

## (2) 「伊那社」の設立

大正 9 年(1920)に、下伊那地方の組合製糸の連合体である組合製糸「伊那社」が設立され、横浜市場との直接取引が可能となった。

大正 12 年(1923)には待望の伊那電気鉄道が飯田駅まで開通し、生糸の輸送に鉄道が利用できることになり、養蚕業は最盛期を迎え昭和 5 年(1930)の集繭量は 8,235 t (養蚕農家数 19,018 戸)となり、全国でも有数の生産量を示した。

## (3) 「伊那社」から「天龍社」に

順調に発展してきた養蚕業であったが、昭和 4 年(1929)の世界的大恐慌により、100 斤(1 斤=600 g)当たり 1,310 円だった生糸値が翌年には 775 円に暴落し、農村は深刻な不況に陥った。

郡下各地の弱小な組合製糸も苦境に追い込まれ、その打開策として昭和 9 年(1934)に 31 の組合製糸が統合し、「伊那社」から下伊那生糸販売購買利用組合連合会「天龍社」に改組された。事

務所や工場は現在地(飯田市)に移転し、さらに本社工場の他に市田・阿南・中央(片倉製糸飯田工場を買収)・時又工場と逐次増設していった。

## 4 戦後

昭和 30 年代までは国内の繭生産量は 11 万 t ほどであったが、合成繊維の普及による着物離れ、農業後継者の減少、安い外国産の繭や生糸の増加等の影響で、養蚕農家は減少の一途をたどり、平成 8 年度(1996)は 3,000 t、平成 16 年度(2004)は 660 t に激減した。

昭和 36 年(1961)の三六災害で、天龍社市田工場は壊滅的な被害を被った。これを契機に、天龍社は市田・阿南・中央・時又工場を統合して鼎町の本社工場の建設がなされ、昭和 44 年(1969)に自動繰糸機約 20 台、18 セットの生産ラインと、4 階建寄宿舎などの厚生施設をもつ近代工場として生まれ変わった。

こうした企業努力にもかかわらず、1970 年代

の経済成長とともに農業後継者の減少、外国産生糸の輸入等の影響



碓氷製糸の全景

で、養蚕農家は減少の一途をたどり、約 80 年という長い歴史を誇る天龍社は平成 9 年(1997)10 月に製糸機能を停止した。

天龍社が製糸部門を停止し、権利・義務一切が JA みなみ信州に継承されたため、平成 10 年(1998)から飯伊産の繭は全て碓氷製糸に委託されることになった。

## 二 養蚕農家の経営状況

### ○久保田昌幸さん(高森町)の経営

高森町では、現在 2 軒(山吹地区 1 軒、下市田地区 1 軒)が飼育。

久保田さん宅では、最盛期の昭和 55 年(1980)頃には、年 6 回の飼育(春蚕 2 回、夏蚕 2 回、秋

蚕 2 回) を行い、母屋は勿論のこと倉庫やハウス等も使って飼っていたが、現在は夏蚕のみに縮小された。桑畑も、周囲が果樹園になって消毒がかかるので抜根され、野菜や柿の栽培に転換されていった。



レール上を移動できる飼育台

飼育台で飼われている蚕 (品種名「あけぼの」) に、枝ごと刈り取ってきた桑の葉を手際よく給桑していた。繭掻きも現在は機械を使い、毛羽取りも電動式の機械で行われていた。

ごみや汚れが取り除かれた繭は袋詰めにして、飯田市育良町にある J A の集荷センターに各自で搬入するとのこと。

養蚕農家の減少した要因として、繭の外国からの輸入や、着物離れといったことも勿論であるが、後継者不足が最大の要因であるとのこと。久保田さんは、伝統産業を守るという誇りがあるので、桑畑がある限り頑張っ て飼育したいと語ってくださった。

### 三 新たな取組み

#### I 家蚕品種の研究 (信州大学繊維学部)

昭和 30 年 (1955) 代から平成初期にかけて全国で飼育された「錦秋・鐘和」、「春嶺・鐘月」、ドレス等に向けた細い糸の需要から「あけぼの」等の品種が開発された。さらに、平成 11 年 (1999) に人工飼料でも飼育が可能な「白銀」、平成 12 年 (2000) には、昭和 45 年 (1970) 頃発見された突然変異の品種「沢 J」を基に、人工飼料での飼育品種として、桑のみでなくリンゴや柿の実でも飼育が可能な「ほのぼの」(広食性品種) が開発され、注目を集めている。

#### 2 遺伝子組み換え蚕の開発

##### (1) スパイダーシルク

信州大学繊維学部は、蚕とクモの遺伝子を掛け合わせた「ゲノム (染色体) 改変カイコ」の

研究に取り組み、平成 18 年 (2006) にクモの糸を 10% 含むより強靱な糸



夢の糸「スパイダーシルク」

「スパイダーシルク」の繭を作ることに成功した。翌年、奈良県の靴下メーカーと共同開発による試作品を発表した。現在は、国内のオオジョロウグモの遺伝子を蚕に組み込む研究に取り組んでいる。「夢の糸」とも呼ばれる「スパイダーシルク」が量産できれば、ナイロン等よりも強い新素材が出現することになり、研究の行方が注目されている。

#### (2) 医薬品 (繭から蛋白質を溶かし出して癌などの薬にする) の研究

#### (3) 光る絹 (オワンクラゲやサンゴの遺伝子を組み合わせた蚕) の製品化

#### まとめ

かつて高森町の農業の主流をなしていた養蚕。繭から生糸に繰糸し、絹織物にするというのがこれまでの通念であった。しかし生糸の用途も、健康食品、医薬品、健康肌着等医療面でも注目されるようになり、また遺伝子組み換えの蚕等の研究にも注目が集まっている。

激変する時代だからこそ、久保田さんと中村さんには、伝統産業を守るという誇りをもって頑張っ て養蚕を続けていただきたいという思いを強くした。

# 平成 24 年度 資料寄贈者御芳名

## ◆民俗資料・その他

(敬称略)

品名	数量	氏名	住所
大島山瑠璃寺の獅子舞DVD	1	瀧本 慈宗	瑠璃寺
火消籠	1	本多 敬穂	岐阜県中津川市
土臼	1	吉川 昭	吉田
石臼	1	吉川 昭	吉田
油搾り機	1	吉川 昭	吉田
蚕籠	2	本島 恭則	吉田
書籍「図解 山城探訪拾遺資料編 第二十一集」	1	宮坂 武男	岡谷市
書籍「両大戦間期の組合製糸」	1	田中 雅孝	豊丘村
松根油を採取したアカマツ	1	追分集落	山吹
木製鋏	3	曾田 光雄	吉田
漏斗(じょうご)	1	曾田 光雄	吉田
下駄スケート	1	曾田 光雄	吉田
書籍「飯島町北町の歴史」	1	飯島 紘	飯島町
書籍「飯田の文化財」	1	山田 博章	下市市
書籍「井伊保物語」	1	浜松市	静岡県浜松市

## ◆書籍・刊行物(主なもの)

(敬称略)

品名	数量	氏名	住所
「霧ヶ峰 スキーことはじめ」	1	諏訪市博物館	諏訪市
「中津川宿 ～さんぽ～」	1	中津川中山道歴史資料館	岐阜県中津川市
「清内路 歴史と文化3」	1	東京大学大学院人文社会科	東京都文京区
「ものが語る 信濃の歴史」	1	長野県立歴史館	千曲市
「農村舞台 建物編 2」	1	飯田市歴史研究所	飯田市
「滝沢具幸～地のうた～」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「信州南部活断層地質図」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「市岡家資料目録」	1	中津川中山道歴史資料館	岐阜県中津川市
「飯田市歴史研究所年報 10」	1	飯田市歴史研究所	飯田市
「伊那谷のやきもの」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「正宗得三郎」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「ふるさとの石造物遺産」	1	毛賀史学会	飯田市

## ✿入館者数と利用のようす✿ 〈入館者数〉(単年度及び開館以降の累計)

○平成 24 年度の単年度入館者数

7,020名 (町内 5,687名 町外 1,333名)

○昭和 54 年 11 月 (開館)～平成 25 年 3 月 31 日までの累計

192,048名 (町内 150,297名 町外 41,751名)



吉川家から寄贈された土臼



追分集落から寄贈された松根油を採取したアカマツ



市田柿由来研究委員会も行われました

## ご案内と募集

### ご案内

- ♣開館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
- ♣休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始
- ♣学習室・研修室・町民ギャラリー

町民の皆さまに開放しております。

学習室・研修室は、諸会合・学習等に、町民ギャラリーは、作品等の展示にご利用ください。

### 募集

古文書研究会を毎月第 2 木曜日午後 1 時より学習室にて開いております。どうぞご参加ください。

## 編集後記

より親しんでもらえる資料館報をめざして、この 33 号から表紙をカラーページにしました。組合回覧などでは皆さんの目に留まっていただけではないかと期待しております。予算上では同じ金額での発行ですので、今までの館報より 4 ページ減ってしまいましたが、内容を精選して編集したつもりです。この館報を手にとっていただき、資料館の活動についてのご理解を深めていただけたらと願っております。そして、皆様に愛され、頼りにされる資料館をめざして努力したいと思っています。

(松上 記)